

「千葉県立図書館の今後の在り方」行動計画

平成26年度実施状況報告

I 市町村立図書館充実のための支援強化	(目次)
1 県内図書館ネットワークの中核的機能の強化	p 1
2 新しい図書館サービス実施のための職員研修プログラムの開発・実施	p 3
II 未来を担う子どもの読書活動の推進	
1 子どもの読書活動推進センター館機能の強化	p 4
2 学校図書館との連携・支援	p 6
III 県民の役に立つ資料・情報提供サービスの普及	
1 県民の課題解決に対する支援	p 8
2 高齢者・障害者サービス等	p 11
IV 千葉県に関する資料や情報の蓄積、継承	
1 千葉県関係資料の網羅的収集、提供、保存	p 13
2 関係機関と連携した地域デジタル情報の収集・発信	p 16
V 社会の変化に対応した図書館サービスの推進	
1 ITを活用したハイブリッド図書館の整備	p 17
2 県民に開かれた図書館経営	p 18
VI 今後の図書館経営・施設整備の方向性	p 19

平成27年8月

千葉県立図書館

I 市町村立図書館充実のための支援強化

住民の生涯学習と地域の発展を支える情報拠点としての機能を十二分に発揮し、充実した図書館サービスが行えるよう市町村立図書館を支援する。（※白抜き○番号【①等】は最重点事業。目標数値は3年間の平均値または累積数）

1 県内図書館ネットワークの中核的機能の強化

【重点事業①】 資料搬送ネットワークの維持・改善

○現在の資料搬送ネットワークを継続するとともに課題について検討し、現状よりも多くの施設に、市町村で収集し難い資料収集を含め、迅速な資料提供ができるようにする。

<年度別>25～26年度 図書館実態調査の実施（他都道府県、県内市町村）

【新】中央）都道府県立図書館実態調査実施（県内市町村はH25に終了）

【平成26年度進捗・成果】

中央）都道府県立図書館への実態調査は、前例が無いか調査し、平成22年度に全国公共図書館協議会調査と、求める調査内容と類似しているため、今年度の調査実施は見送ることとした。

今後は、前年度実施した県内図書館調査、他都道府県の実施状況を分析し、資料搬送の巡回回数現状以下にならないよう配慮するとともに、回数以外での利便性向上（支援体制の有効活用等）、相互貸借を活発にするための広報等、課題について整理、検討していく。

数 値 項 目	基本数値 24年度	目標数値 27年度	25年度	26年度	27年度	平均
A 県立図書館蔵書貸出冊数	冊 90,226	平均 冊 91,500	冊 89,984	冊 93,615		冊 91,800
B 市町村立図書館等読書施設蔵書貸出冊数	冊 94,615	平均 冊 96,000	冊 94,493	冊 98,542		冊 96,518

【重点事業②】 情報検索ネットワークシステム（横断検索システム）の維持・改善

・次期システムの更新に向けて更なる対象館の拡大とシステムの改良を行う。

<年度別>25年度～ 次期システムの検討、26年度 県内図書館アンケート調査実施

3館）ワーキンググループによる次期システムの検討（継続）

【平成26年度進捗・成果】

3館）現行システム機能要件の見直しと新規導入項目の検討、複数の図書館電算システム業者によるデモンストレーション実施など、次期電算システム方針立案に向けた検証作業を進めた。

数 値 項 目	基本数値 24年度	目標数値 27年度	25年度	26年度	27年度	平均
C 利用者アンケート満足度調査 総合満足度	% 74.3	平均 以上 75%	76.3%	79.5%		77.9%
うち資料検索機、インターネット等パソコン利用の満足度【他の項目はV-2参照】	66%	—	73%	77%		75%

【重点事業③】 県内大学図書館、類縁機関とのネットワークづくりを推進

○大学図書館については、千葉県立図書館横断検索への参加や相互貸借など、一層の連携や充実を図る。

○類縁機関については、県の機関を中心に連携を推進し、千葉県関係資料のデータベースの一層の充実を図る。

＜年度別＞ 25～28年度 大学図書館、類縁機関と連携について協議
3館）連携の在り方について検討（継続）

【平成26年度進捗・成果】

3館）連携の在り方について検討（連携事業の実施）

県立中央博物館との意見交換会を2回開催し、連携についての意見交換を行うとともに、具体的な連携事業についての計画、調整を行った。

また、中央博物館が文化庁の補助を得て今年度から開始した「博物館・図書館・公民館との連携による地域文化発信事業」の一環として実施する「千葉県『もののけ』調査プロジェクト」への協力事業として、県内図書館「もののけ情報箱」設置等、情報募集事業への支援・協力を行った。

＜大学図書館、類縁機関との連携事業＞ [※人数は参加者数を示す（以降同様）]

3館）県内の大学及び類縁機関と連携し、資料の相互貸借や研修事業を行った。

大学への貸出（907冊）及び借受（48冊）、類縁機関への貸出（33冊）

中央）中央博物館連携事業 ①「かっぱ」のおはなし会（7月12日、16人）、②河童に関するミニ展示（7月12日～11月7日）、③企画展示「妖怪発見伝 ～あやかしの世界へようこそ～」（12月20日～2月15日）、④もののけ祭（2月15日、会場：中央博物館）での中央図書館職員による読み聞かせ（3回、延べ213人）

校外学習セミナー（講師：中央博物館）1月16日、230人

講演「もののけ半島ちばー河童・浮世絵・博物学ー」（講師：中央博物館）1月24日、31人

西部）講座「サイエンス・カフェ① いきもの編」（講師：中央博物館）8月9日、25人

「もののけ絵解きトーク」（講師：中央博物館）9月20日、34人

「サイエンス・カフェ② 科学技術編」（講師：現代産業科学館）10月25日、31人

展示「昭和の風景—写真と資料でたどる昭和20～30年代—」（10月18日～12月18日）

（中央博物館所蔵パネル写真による展示会同時開催）

講座「地震発生のメカニズム 地震・火山災害を正しく恐れる」（講師：中央博物館）3月8日、40人

東部）講座「歴史講座 戦国武将 松平家忠と東総」（講師：中央博物館）11月22日、83人

「千葉経済短期大学部との連携研修会」（講師：千葉経済短期大学部）2月19日、35人

内容：課題解決支援を視野においたレファレンス・ワーク

2 新しい図書館サービス実施のための職員研修プログラムの開発・実施

【重点事業①】 図書館研修センターとしての機能強化

○運営支援の一環として、全ての県内図書館等読書施設の職員が、図書館サービス向上のための研修を受けられるよう、千葉県公共図書館協会と連携した研修プログラムの開発を行う。

<年度別>25～26年度 県内図書館アンケート調査（検討・実施・分析）

3館）県内アンケート調査結果の分析、課題整理（継続）

【平成26年度進捗・成果】

3館）参加者の移動負担を軽減するため、新任職員研修を県立3館で分散開催した。また、話題・課題性の高い研修内容を選び実施した。今後も課題把握や情報収集を積極的に行っていく。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
D 研修会の参加者数及び満足度 (参加者数)	人	平均 人	人	人		人
	656	660	662	681		672
(満足度)	未調査	平均 以上	%	%		%
		70%	88.0	91.5		89.8

<研修会（実施状況）> 19回開催（図書館等読書施設職員 延べ681人）

中央）「新任職員研修会」5月14日、60人

「中堅職員研修会」10月3日、36人

「地域行政資料研修会」7月9日、22人

「児童サービス研修会（全5回）」第1回6月19日、第2回7月3日、第3回7月10日、

第4回10月16日午前、第5回10月16日午後、延べ256人

「レファレンス研修会〔基礎研修〕」6月20日、51人

「レファレンス研修会〔専門研修〕」10月9日、24人

「課題解決支援サービス研修会（日露戦後の千葉県政をめぐる人々）」11月26日、22人

西部）「新任職員研修会」5月21日、21人

「障害者サービス研修会 第1回」6月27日、41人（うち図書館等職員27人）

「障害者サービス研修会 第2回」11月28日、37人（うち図書館等職員27人）

「課題解決支援サービス研修会 第1回」（国会図書館デジタルコレクション）」7月11日、45人

「課題解決支援サービス研修会 第2回」（図書館ブランディング入門）」10月10日：25人

東部）「新任職員研修会」5月23日、8人

「課題解決支援サービス研修会（資料の保存と修理）」10月1日、22人

「千葉経済大学短期大学部との連携研修会」2月19日、35人

Ⅱ 未来を担う子どもの読書活動の推進

県内公立図書館のセンター館として、家庭、市町村立図書館、学校等における子どもの読書活動やこれに携わる人や機関等との連携協力の推進を図る。

1 子どもの読書活動推進センター館機能の強化

【重点事業①】 児童サービス職員研修会の開催、運営相談の実施

- 市町村立図書館等読書施設でも対応できるよう児童サービス担当職を育成する。
- 研修プログラム等の見直しを図る。

<年度別>25～26年度 県内図書館アンケート調査の実施

3館) 県内アンケート調査結果の分析、課題整理(継続)

【平成26年度進捗・成果】

中央) 市町村立図書館等職員向け研修会を5回開催、延べ256人参加、満足度は90.4%であった。職員向け研修会については、昨年度実施した県内アンケートをもとに検討した結果、現在の年5回の研修を、年度をまたいでも分割受講できるよう募集方法を改善した。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
D' 研修会の参加者数及び満足度 I-2-①の数値項目のうち児童サービス研修会 [参考項目]	人	平均 人	人	人		人
	204	—	243	256		250
	未調査	平均 以上	%	%		%
		—	94.1	90.4		92.3
E 児童サービス研修会開催回数	回	平均 回	回	回		回
	4	5	5	5		5

中央) 「児童サービス研修会(全5回)」 延べ256人、満足度90.4%

第1回 (児童奉仕概要) 6月19日、52人

第2回 (絵本・物語について) 7月3日、50人

第3回 (おはなし会の運営、レファレンスサービス、ノンフィクションの選書) 7月10日、49人

第4回 (絵本の読み聞かせ) 10月16日(午前) 44人

第5回 (講演会) 10月16日(午後) 61人

演題「子どもたちに本を選ぶということ～子どもと本に関わるものとして伝えたいこと」講師 教文館ナルニア国 国岡昌子氏

【重点事業②】 家庭における読書活動の推進

- 講座プログラム等事業の見直しを図り、地域のボランティアとして活動できるよう支援する。
- 乳幼児・児童などの保護者等への課題解決支援サービスを検討、実施する。

＜年度別＞25年度～ 事業内容の再検討と実施

中央) 子育て支援情報コーナーの充実(継続)、図書館ボランティア育成(継続)

【平成26年度進捗・成果】

中央) 県民が子ども読書活動における地域ボランティアとして活動できるよう「子どもの本の読み聞かせ講座」を平成27年1月22日から23日までの2日間神崎町で開催し、延べ87人の参加を得た。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
F 図書館ボランティアの育成者数	人 65	平均 人 70	人 74	人 87		人 81

【重点事業③】 ヤング・アダルトサービスの開発

- 10代の若者に対して進路や就職など必要な資料情報活用のための支援を行う。
- 10代に出会う多様なテーマや生き方を、読書を通じて支援していく。

＜年度別＞26～27年度 サービス計画立案・策定

【新】中央) 図書館実態調査実施

【平成26年度進捗・成果】

中央) 高校へのレファレンス提供済み資料リストを35件作成し、県立3館で情報共有化を図った。

図書館ホームページへ「子ども向け」のブックリストを2件掲載した。

- ・ヤング・アダルトサービスに関する調査については、事例が無いが調査し、26年8月に日本図書館研究会が調査を行っており、求める調査内容と類似しているため、今年度の調査実施は見送ることとした。今後は、この調査結果を活用し具体的な検討を行っていく。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均/累計
	24年度	27年度				
G 児童書の貸出冊数 <児童資料室(中央)>	冊 37,661	平均 冊 40,000	冊 38,382	冊 40,176		平均 冊 39,279
H 子ども読書支援関係のテーマ別リスト 作成件数	件 22	累計 件 70	件 25	件 35		累計 件 60

※電算上ヤングアダルト世代(13歳から18歳)への貸出冊数の統計は取れない。

＜テーマ別リストの主な内容＞ 「現代の食生活の問題」、「就活」、「環境問題、保健衛生」など

2 学校図書館との連携・支援

【重点事業①】 学校向けの貸出用資料の整備

○高等学校からの要望も取り入れながら、新規のテーマや既存のセットに新刊図書を組み入れる等、授業で利用できる資料整備を推進していく。

<年度別>25～29年度 学校用セットの整備、25～26年度 学校図書館へのアンケート調査の実施
 中央) 校長会・教員研修会等でのPR(継続)、資料整備(継続) [アンケート25年度実施済]
 西部) 特別支援学校への訪問読書支援(継続)

【平成26年度進捗・成果】

中央) 校長会や司書の会議に加え、実際授業等で指導を行う教員の会議(総合教育センター高校5年、10年経験者研修)でのPRを行った。また、PR効果を高めるため、貸し出し時に意見票を添付、実践例の収集を開始した。

学校セット整備: 10セット276冊追加(総数103セット2,310冊)、利用実績延べ50校133セット
 西部) 特別支援学校への訪問読書支援の実施(西部管内の県立校へ事前調査、希望校7校へ訪問した。)

ア 読み聞かせ・運営相談: 7校(つくし、船橋、野田、松戸、市川、柏、我孫子特別支援学校)

イ 運営相談: 特別支援市川大野学園

(その他、特別支援学校へ「障害者サービス研修会(全2回)」の参加呼びかけ、延べ7人参加)

東部) 東総地区高等学校図書委員連絡協議会研修会交流会、第3地区図書主任及び学校図書館司書合同総会及び研究会、東総地区高等学校図書委員連絡協議会研究会での広報。県内高等学校・特別支援学校・大学への運営相談(計48回)、運営相談時に広報パンフレットの配布を行った。

・学校図書館運営研修会(学校図書館担当者を対象に資料の簡易補修研修会)実施、9人参加

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
I 県立学校等への資料貸出冊数	冊	平均 冊	冊	冊		冊
	13,555	15,000	15,584	17,572		16,578

【重点事業②】 物流ネットワークの整備

○現在の資料搬送ネットワークを継続するとともに課題について検討し、現状よりも多くの学校に、迅速な資料提供ができるよう効率的なネットワークを整備する。

<年度別>25～26年度 学校図書館へのアンケート調査の実施 [アンケート25年度実施済]

【平成26年度進捗・成果】

3館) 学校の求めに応じて、中央は宅配、西部・東部は協力車巡回による資料搬送を行った。

中央) 利用校を増やすため、校長会や司書の会議でのPR等(前出II-2参照)を行った。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
I 県立学校等への資料貸出冊数	冊	平均 冊	冊	冊		冊
【再掲 II-2-①】	13,555	15,000	15,584	17,572		16,578

【重点事業③】 小・中学校図書館との連携・支援

- 事業内容を再検討し、研修会の実施や講師の派遣など事業の充実を図る。特に図書館未設置市町村の学校図書館への支援方法等を検討し、実施していく。
- 児童・生徒が抱える課題解決支援サービスを検討し、資料・情報を提供する。

＜年度別＞25年度～ 事業内容の再検討と実施

- 25～27年度 図書館未設置市町村読書施設の実態調査と支援方法再検討
- 3館) 研修会の実施や講師の派遣（継続）、近隣小中学生の職場体験受入（継続）
- 3館) 県内アンケート調査結果の分析、課題整理（継続）

【平成26年度進捗・成果】

3館) 通年 近隣小中学生の職場体験受入（中央：中-8校19人、東部：小-2校7人、中-11校23人）

小・中学校図書館には、調査相談や市町村立図書館等を通しての資料貸出しを行った。

中央) 図書館未設置市町村の中学校で開催された母親読書会の研修会に職員を1名派遣し、絵本の読み聞かせを指導した。また、企画展示「妖怪発見伝」の関連行事として、近隣中学校1年生（2校）対象の校外学習セミナーを実施した。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
J 教職員等に対する研修会開催回数 及び講師派遣件数	回	平均 回	回	回		回
	(開催) 2	2	2	1		1.5
	件	平均 件	件	件		件
	(派遣) 13	14	8	8		8

＜研修会開催（実施状況）＞ 1件

東部) 学校図書館運営研修会：学校図書館担当者を対象に資料の簡易補修研修会を実施。参加者9名。

＜講師派遣（実施状況）＞ 8件

中央) 「さわやか県民プラザ 読み聞かせ朗読講座（全2回）」 2人

九十九里町母親読書会（九十九里中学校）1人

千葉県高等学校教育研究会学校図書館部会総会、千葉県教育研究会学校図書館教育部会総会、

公立学校図書館と学校連携を図るための研修会、高等学校ステップアップ研修、県立学校等10年経験者研修 各1人（計5人）

西部) 全国高等学校国語教育研究連合会第47回研究大会（千葉大会）1人

Ⅲ 県民の役に立つ資料・情報提供サービスの普及

県民や地域、行政が抱えている法律、医療・福祉の問題、まちづくりなどの課題を解決するための調査研究支援を先導して行うとともに、市町村立図書館等への普及を図る。

1 県民の課題解決に対する支援

【重点事業①】 課題解決支援サービスの実施及び市町村立図書館への普及

○県立3館の研修内容を精査し、千葉県公共図書館協会とも連携して開催する等市町村立図書館への普及を推進する。

○地域の課題に対応した課題解決支援サービスのサービス計画の立案を支援するため、市町村立図書館等の相談に応じる。

＜年度別＞25年度～ 市町村立図書館主体の課題解決講座始業の相談対応開始

25～26年度 事業内容の検証

3館) 課題解決支援サービス研修会開催(継続)、課題解決支援サービス研修会開催時でのアンケート調査(継続)

【平成26年度進捗・成果】

3館) 3館の特色を生かした課題解決支援サービス研修会を4回実施、図書館等職員114人が参加、研修会開催時アンケート調査での満足度は88.4%であった。また、県民向けの講座を8回開催し、延べ285人の参加を得た。

＜課題解決サービス支援研修会(実施状況・内容)＞ 4回(114人、満足度88.4%)

中央)「日露戦後の千葉県政をめぐる人々」11月26日、22人(他に一般6人参加)

西部)第1回「国会図書館デジタルコレクション」7月11日、45人

第2回「図書館ブランディング入門」10月10日、25人

東部)「資料の保存と修理」10月1日、22人

＜課題解決サービス関連講座(実施状況)＞ 9回(延べ285人)

中央)「暮らしに役立つ法律・判例情報講座(全2回)」6月1日、延べ37人

第1回:午前の部(データベース)17人、第2回:午後の部(消費者トラブル)20人

「データベース活用講座(官報情報検索サービス活用講座)」11月20日、8人

西部)「困りごと解決支援講座」11月29日、28人、

「生涯現役実現セミナー」12月5日、29人

「健康・医療情報講座」2月14日、27人

「東日本大震災関連講座」3月8日、40人

東部)「地域づくり支援講座 天保水滸伝でまちおこし!」10月18日、80人

「はつらっライフ支援講座」1月24日、36人)

<参考項目>

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
D' 研修会の参加者数及び満足度	人	平均 人	人	人		人
I-2-①の数値項目のうち (参加者数)	80	—	104	114		109
課題解決支援サービス研修会 (満足度)	未調査	平均 以上	%	%		%
		—	87.5	88.4		88

【重点事業②】 レファレンス事例集紹介、調べ方案内、リンク集の作成

- 利用者ニーズを把握し、作成件数を増加しながら、既存のものについても常に最新のものに更新していく。
- 作成にあたっては、県行政機関の広報活動支援の一助となるよう各機関が発信する情報の収集及び提供に努める。

<年度別>25～29年度 利用者ニーズの把握・検討、データの新規作成及び更新

3館) パスファインダーの作成(継続)、国会図書館レファレンス協同データベース提供(継続)

【平成26年度進捗・成果】

3館) 国立国会図書館レファレンス協同データベース提供 94件

レファレンス事例は、データベース登録に適した事例を選定し、同様事例の調査にも利用しやすいように調査過程などの補足や加工をして事例登録した。

※国立国会図書館レファレンス協同データベース

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築する調べ物のための検索サービス。参加館の質問・回答サービスの事例、調べ方、コレクション情報など調査に役立つ情報を公開している。

3館) パスファインダー(調べ方案内)の作成 10件

問合わせの多い調査、社会的な関心が高まっているテーマ及び講座や展示資料と関連したテーマのパスファインダー(調べ方案内)を作成、配布するとともに図書館ホームページへ掲載した。

<内容>

中央) 作成5件 新規2件(成年後見制度について調べる、千葉県的人物を調べる<子ども向け>)
改訂3件(図書を探す、教科書の調べ方、新聞記事を探す)

西部) 作成3件 新規3件(モチーフから浮世絵を探す、肥満症・メタボリックシンドロームについて調べる、『診療ガイドライン』を調べる)

東部) 作成2件 新規2件(「戦国武将について調べる」「終活について調べる」)

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	累計
	24年度	27年度				
K 国立国会図書館のレファレンス協同データベースへの事例提供件数	件 69	累計 件 210	件 85	件 94		件 179
L パスファインダー(調べ方案内)の作成件数	件 18	累計 件 40	件 20	件 10		件 30

【重点事業③】 商用データベースの積極的導入

○効果的且つ効率的な導入方法を検討し、専門的なレファレンスに迅速に対応できるようにする。

○多くの来館者が操作方法を修得できるよう分かり易く、魅力的なガイダンスを定期開催する。

<年度別>25～28年度 データベースの導入方法の検討

3館) パスファインダーの作成、利用講座の実施(継続)、3館) 新規データベースの要求(継続)

【平成26年度進捗・成果】

データベースに関する利用・活用講座を計8回(中央2回、西部3回、東部3回)開催した。
また、国・民間(有料)等のデータベースを活用した調査相談、来館利用提供を行った。

中央)「くらしに役立つ法律・判例情報講座」(法律に親しむデータベース活用法)6月1日、17人
「データベース活用講座(官報情報検索サービス活用講座)」11月20日、8人

西部)「ワンポイント図書館活用講座」(各講座前に開催)

「相続・遺言について調べる」(困りごと解決支援講座)11月29日、28人

「就労に役立つ情報を調べる」(生涯現役実現セミナー)12月5日、29人

「肥満症・メタボリック情報を調べる」(健康・医療情報講座)2月14日、27人

東部)『図書館ナビ』データベース講座

「農業について調べよう」(内容:ルーラル電子図書館)8月24日、1人

「D1-Lawで法律・判例について調べてみよう」10月26日、1人

「防災について調べてみよう」2月15日、1人

<民間(有料)データベースの内容(導入状況)>

中央)5種:D1-Law、官報情報検索サービス、日経テレコン21、G-search、ヨミダス歴史館

西部)7種:D1-Law、官報情報検索サービス、日経テレコン21、G-search、聞蔵Ⅱ、医中誌Web、CiNii

東部)5種:D1-Law、官報情報検索サービス、毎日ニュースパック、G-search、ルーラル電子図書館

2 高齢者・障害者サービス等

【重点事業①】 バリアフリー化の推進

○耐震化改修後のリニューアルに向けて、次期システムの更新も視野に入れてワンストップサービスの実現や書庫出納の迅速化等施設面、情報面においてバリアフリー化を推進する。

<年度別>25年度～ 施設検討（基本設計・実施設計）、耐震等改修工事
中央）県立図書館機能の強化に必要な施設・設備の検討（継続）

【平成26年度進捗・成果】

中央）改修計画事前調査を基に検討を進めた。

【重点事業②】 高齢者サービスの開発

○関係資料や拡大読書器等の提供とともに、講座開催など、シニア向けサービスを検討、実施する。
○県行政関係機関の広報活動と連携した講座・研修事業を検討、実施する。

<年度別>25～26年度 先進事例調査、西部）先進事例調査の分析、課題整理（継続）

【平成26年度進捗・成果】

3館）高齢者サービスの現状と課題について、全国都道府県立図書館に聴取し結果をまとめた。
調査結果では、大活字本の整備・貸し出しは各館で実施、高齢者向け講座等は11県での取組があり、図書館員向け研修会は岡山県で実施、高齢者向けサービス計画はいずれの館も無かった。
また、関係講座開催などシニア向けサービスの充実に努めた。
中央）「障害者のための読書支援機器活用講座（全2回）」第1回7月15日、第2回7月25日、延べ7人
内容：音声読書機器や拡大読書器の高齢者サービスへの有効性など
西部）「生涯現役実現セミナー」12月5日、29人 内容：就労・生きがいづくりに役立つ情報
東部）「シニア支援コーナー」の資料・関連情報提供の充実（「はつらっライフなび」に名称変更）
「はつらっライフ講座 準備して安心！終活」1月24日、36人
内容：千葉県金融広報委員会の金融広報アドバイザー講師による講演

【重点事業③】 障害者サービスの充実及び市町村立図書館への普及

○県や市町村の担当課、特別支援学校、関係団体等と連携した広報活動を行う。
○県や市町村の社会福祉協議会などを通して利用者ニーズを把握し、サービスの充実を図る。
○市町村立図書館で事業を行う重要性が理解できるよう研修事業を見直す。

<年度別>26年度 研修事業の見直し、広報事業開始

3館）広報計画の作成（引き続きH26も継続）、【新】西部）特別支援学校への訪問読書支援及び事業PR

【平成26年度進捗・成果】

3館）障害者サービス関係の研修会2回、講座12回開催し、延べ256人が参加した。
西部）・特別支援学校への訪問読書支援実施（西部管内の県立校へ事前調査し、希望校7校訪問）。
・本をデータ化しパソコン等で音声読み上げする「テキストデータサービス実証実験」実施。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
M 録音図書貸出タイトル数及び利用者満足度 (タイトル数) (満足度)	タイトル 10,280	平均 タイトル 10,400	タイトル 10,051	タイトル 11,030		タイトル 10,541
	未調査	平均 以上 70%	% 81.9	% 89.9		% 85.9

<障害者サービス関係研修・講座（実施状況）> 講座12回（延べ177人）、研修2回（延べ78人）
中央：講座6回（64人）、西部：講座5回（102人）研修会2回（78人）、東部：講座1回（11人）

中央）「障害者のための読書支援機器活用講座（全2回）」延べ7人

第1回：音声読書器活用講座 7月15日、4人、第2回：拡大読書器活用講座 7月25日、3人

「障害者のためのサピエ図書館活用講座」12月3日、12人

「図書館音訳者養成講座（全2回）」2月3日、10日、延べ30人

「障害者のための電子書籍活用講座」2月4日、15人

西部）「障害者のための資料デジタル化講座（全3回）」5月28日、6月4日、11日、延べ61人

「図書館音訳者養成講座（中級）」11月20日、24人

「障害者のための読書支援機器活用講座」1月23日、17人

「障害者サービス研修会 第1回」6月27日、41人（うち特別支援学校教職員2人）

「障害者サービス研修会 第2回」11月28日、37人（うち特別支援学校教職員5人）

東部）「図書館音訳者養成講座」12月10日、11人

IV 千葉県に関する資料や情報の蓄積、継承

千葉県や県内市町村に関する資料を網羅的に収集・保存し、将来にわたって利用できるようにするとともに、千葉県に関する情報窓口として様々な情報を発信していく。

1 千葉県関係資料の網羅的収集、提供、保存

【重点事業①】 千葉県関係資料の網羅的収集整備、保存

- 網羅的収集ができるよう地域・行政資料等の積極的な収集体制づくりを進める。
- インターネット上の資料を図書館情報システムの中で収集・閲覧できるよう、著作権者の許諾対応など研究していく。
- 資料収集の一環として、県民への県立図書館機能の周知と情報収集を行う。

＜年度別＞25年度～ 県民向け広報活動の検討と実施、26年度 都道府県立図書館の調査中央）チラシ等の作成・配布（継続）、研修会（一般参加）の開催と広報（継続）

【新】3館）東日本大震災及び防災関連資料・情報の収集・提供

【平成26年度進捗・成果】

中央）東日本大震災及び防災関連資料・情報の収集・提供については、図書館ホームページへの東日本大震災千葉県関連サイト（寄贈のお願い、関連所蔵資料等の情報提供等掲載）を新設するとともに、県・市町村等への寄贈依頼を行った。また、県民に寄贈を呼びかけるチラシや、国立国会図書館と連携・連名の事業の広報チラシなどを製作、配布した。

- ・県民向け広報活動として、図書館職員向けの「課題解決支援サービス研修会（講演）」を県民に参加を呼びかけた（6人参加）。
- ・25年度作成「千葉県資料室PRリーフレット」を補完するリーフレット（菜の花ライブラリーの案内）製作の準備を進めた。
- ・網羅的収集とインターネット上の資料の収集についての都道府県立図書館調査を行った。今後、聴取した他県の取り組みの中から参考になる事例があるかなど検討を行う。

＜参考項目＞

「資料受入冊数」は数値目標としていない。

基本項目	基本値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度				
○ 千葉県関係資料受入冊数	冊 2,231	冊 2,997	冊 2,601		冊 2,799

【重点事業②】 千葉県関係資料インターネット情報検索機能の充実

○県機関で所有している小規模な資料データベースや音声や映像等の資料以外のデータベースについても横断的に検索できるよう研究する。

<年度別>27～28年度 情報提供システムの検討

【平成26年度進捗・成果】

中央) 情報提供システムの検討に向けた県保有データベース（既に一括検索が可能な文書館、博物館、総合教育センター以外）調査の一環として、県HPに各課が掲載している情報確認を行った。

【重点事業③】 千葉県関係の情報検索ツールの充実

○利用者ニーズを把握し、作成件数を増加していく。

○千葉県関係索引データ遡及入力について検討し、計画的に入力していく。

<年度別>26-29年度 千葉日報新聞記事索引入力作業の実施

【新】西部) 昭和62年以前の千葉日報記事索引遡及入力試行開始

【平成26年度進捗・成果】

3館) 国立国会図書館レファレンス協同データベースへの事例提供 29件
(中央17件、西部4件、東部8件)

中央) 千葉県関係「パスファインダー（調べ案内）」作成1件（千葉県の人物を調べる〈子ども向け〉）
千葉県歴史関係雑誌記事索引入力 550件

西部) 千葉日報新聞記事索引入力 8,729件（うち、昭和62年以前の遡及入力2,661件）

東部) 千葉県歴史関係雑誌記事索引入力 213件(中央図書館と分担)

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	累計
	24年度	27年度				
K' [参考項目] 国立国会図書館のレファレンス協同データベースへの事例提供件数 Ⅲ-1-2の数値項目のうち千葉県関係	件 18	累計 件 —	件 21	件 29		件 50
L' [参考項目] パスファインダー（調べ案内）の作成件数 Ⅲ-1-2の数値項目のうち千葉県関係	件 2	累計 件 —	件 8	件 1		件 9
N 千葉県関係索引入力件数	件 6,070	累計 件 20,000	件 8,376	件 9,492		件 17,868

＜レファレンス協同データベースへの千葉県関係事例提供＞

- 中央) 登録17件(「メ粕の生産方法」、「昭和30～50年代の英語教育」等)
- 西部) 登録4件(「上総国にあった退耕庵の場所」「吉田松陰の脱藩の道筋」等)
- 東部) 登録8件(「天保年間の飯岡の出稼ぎ漁師」、「柳原白蓮の佐原の隠れ家」等)

＜千葉県関係パスファインダーの内容＞

- 中央) 作成1件(千葉県の人物を調べる(子ども向け))

【重点事業④】 千葉県関係レファレンスデータベースの構築

○県内図書館のレファレンスデータベースの実態調査を行うとともに、千葉県関係レファレンスデータベースの構築を次期システムに向けて検討する。

＜年度別＞26年度 県内図書館実態調査

- 中央) 事業内容の検討(引き続きH26も継続)、【新】中央)新システムに関する県内アンケート調査の実施

【平成26年度進捗・成果】

- 中央) 県内公立図書館の実態調査を実施し、調査結果をホームページの図書館員のページに掲載した。調査結果では、レファレンス事例集を作成している館は多いが、冊子体が大部分であった。今後は、調査結果等を参考にレファレンスデータベース構築の方法について検討する。

＜参考項目＞

「レファレンス件数」は数値目標上の参考項目

基本項目	基本値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度				
Q 千葉県関係レファレンス件数 ＜千葉県資料室(中央)＞	件 1,563	件 1,536	件 1,634		件 1,585

【重点事業⑤】 資料の劣化防止のためのマイクロフィルム化やデジタル化の推進

○明治以降に刊行された資料についても劣化が進んでいるので、保存対策を検討し、計画的にマイクロフィルム化及びデジタル化を計画的に進めていく。

○国立国会図書館デジタル化資料における千葉県関係資料の活用を図る。

＜年度別＞26年度 著作権処理対応などの調査

- 中央) デジタル化計画の立案(引き続きH26も継続)、【新】中央)都道府県立図書館実態調査実施、【新】中央)国立国会図書館の事例調査

【平成26年度進捗・成果】

- 中央) 「教育要覧」の昭和24、28～30年のデジタル化を行った。また、優先度の高い資料を再調査しながら作業計画の作成を進めた。今後、都道府県立図書館実態調査で聴取した国立国会図書館デジタル化資料活用例を参考に、当館での有効な活用方法を検討する。

2 関係機関と連携した地域デジタル情報の収集・発信

【重点事業①】 関係機関との連携による利用の拡大

○次期システムに向けて、県行政機関及び博物館等類縁機関と協議し、デジタル情報の共有化を研究していく。

<年度別>25～26年度 類縁機関との協議

3館) 関係機関等との連携事業の実施(継続)、県立中央博物館との意見交換会実施(継続)

【平成26年度進捗・成果】 [前出I-1-③]

3館) 関係機関等との連携事業の実施

県立中央博物館との意見交換会を2回開催し、連携についての意見交換を行うとともに、具体的な連携事業についての計画、調整を行った。

また、中央博物館が文化庁の補助を得て今年度から開始した「博物館・図書館・公民館との連携による地域文化発信事業」の一環として実施する「千葉県『もののけ』調査プロジェクト」への協力事業として、県内図書館「もののけ情報箱」設置等、情報募集事業への支援・協力を行った。

<大学図書館、類縁機関との連携事業>

3館) 県内の大学及び類縁機関と連携し、資料の相互貸借や研修事業を行った。

大学への貸出(907冊)及び借受(48冊)、類縁機関への貸出(33冊)

中央) 中央博物館連携事業 ①「かっぱ」のおはなし会(7月12日、16人)、②河童に関するミニ展示(7月12日～11月7日)、③企画展示「妖怪発見伝 ～あやかしの世界へようこそ～」(12月20日～2月15日)、④もののけ祭(2月15日、会場：中央博物館)での中央図書館職員による読み聞かせ(3回、延べ213人)

校外学習セミナー(講師：中央博物館)1月16日、230人

講演「もののけ半島ちばー河童・浮世絵・博物学ー」(講師：中央博物館)1月24日、31人

西部) 講座「サイエンス・カフェ① いきもの編」(講師：中央博物館)8月9日、25人

「もののけ絵解きトーク」(講師：中央博物館)9月20日、34人

「サイエンス・カフェ② 科学技術編」(講師：現代産業科学館)10月25日、31人

展示「昭和の風景—写真と資料でたどる昭和20～30年代—」10月18日～12月18日

(中央博物館所蔵パネル写真による展示会同時開催)

講座「地震発生メカニズム 地震・火山災害を正しく恐れる」(講師：中央博物館)3月8日、40人

東部) 歴史講座「戦国武将 松平家忠と東総」(講師：中央博物館)11月22日、83人

「千葉経済短期大学部との連携研修会」(講師：千葉経済短期大学部)2月19日、35人

内容：課題解決支援を視野においたレファレンス・ワーク

V 社会の変化に対応した図書館サービスの推進

情報環境の急激な変化に対応した新しい図書館サービスを推進するとともに、県民に開かれた図書館経営を行うため、利用者への情報提供や広報を積極的に行う。

1 ITを活用したハイブリッド図書館の整備

【重点事業①】 資料のデジタル化や電子書籍によるハイブリッド図書館

○紙媒体の資料、視聴覚資料とともに「資料のデジタル化」を進め、併せて電子書籍サービスを試行しながら県民ニーズに対応した情報提供サービスの充実を図る。

【平成26年度進捗・成果】

「資料のデジタル化」についてはIV-1-⑤、「電子書籍サービス」についてはV-1-②参照。

【重点事業②】 電子書籍サービス

○民間や国立国会図書館の動向を踏まえ、電子書籍サービスを開始する。
○サービスを施行する中では、市町村立図書館でも開始できるよう調査、検証していく。紙媒体の資料、視聴覚資料とともに「資料のデジタル化」を進め、併せて電子書籍サービスを試行しながら県民ニーズに対応した情報提供サービスの充実を図る。

<年度別>26-28年度 サービスの検証、他県調査

【新】中央）都道府県立図書館実態調査実施

【平成26年度進捗・成果】

中央）館内利用の試行・分析開始

電子書籍等（デジタルコンテンツ）の閲覧を目的としたタブレット端末の館内貸出サービスについては、提供可能なコンテンツが十分でなく利用が伸びない状況であった。引き続き、県民への広報や活用方策等について検討し、充実・普及に取り組んでいく。

電子書籍サービスに関する都道府県立図書館への実態調査については、一般社団法人電子出版制作・流通協議会が公共図書館での「電子図書館サービス」及び「電子書籍サービス」について、全国の公共図書館に実施した調査が11月に公表されたことから、今後は、この調査結果を活用し具体的な検討を行っていく。

<提供コンテンツ>

- ・有斐閣YDC1000（法律書の古典的名著がインターネットを介して利用可能（有料））、
青空文庫（著作権が消滅又は利用許可された本がインターネットを介して利用可能（無料））
- ・千葉県立図書館ホームページ：菜の花ライブラリー、図書館資料の検索

<利用実績（平成26年度）>延べ人数19人（利用時間49時間）

参考（25年度）：年間15人（利用時間28時間）

2 県民に開かれた図書館経営

【重点事業①】 図書館の広報戦略の強化

○県民ニーズを理解し反映するための定期的調査を行い、年間事業計画をたて、県や市町村とも連携し、県内図書館利用促進を含めた実施事業の広報を継続して行っていく。

＜年度別＞25年度～ 広報計画の作成と実践、利用者アンケート調査実施

(非来館者対象の県立図書館アンケート調査検討)

3館) 年間広報計画作成と実施、館内利用者アンケート調査実施(継続)

中央) FM ラジオ放送への参加(継続)

【平成26年度進捗・成果】

3館) 積極的な広報を展開していくため、広報計画の策定を進めた。また、館内利用者アンケート調査(10月26日～11月8日)を3館同時に実施し、総合評価で79.5%の満足度を得た。

中央) 図書館職員がFM ラジオ番組に出演し、県民の方々に読んでほしい図書を紹介した。平成26年度は一般書や児童書に加え、千葉県に関する資料の紹介も行った。(毎月第2水曜日、NHK 千葉放送局FM放送「ひるどき情報ちば」)

数 値 項 目	基本数値 24年度	目標数値 27年度	25年度	26年度	27年度	平均
C 利用者アンケート満足度調査	% 74.3	平均 以上 75%	76.3%	79.5%		77.9%

＜利用者アンケート実施状況 26年度＞

※各項目上段に本年度数値 下段は前年度

質問項目(共通)/総合及び各館評価	総合	中央	西部	東部
問①～⑥の平均値	79.5% 76.3%	78.8% 78.4%	76.6% 70.3%	82.1% 77.5%
①お探しの本(資料)は利用できましたか。	75% 73%	77% 78%	71% 64%	76% 74%
②館内案内図や書架の表示、カウンターの表示などはわかりやすいですか	74% 70%	71% 67%	72% 70%	78% 74%
③職員の対応はいかがですか	89% 86%	87% 89%	92% 85%	91% 85%
④他の図書館からの本の取り寄せの期間や手続きはいかがですか	74% 71%	72% 70%	72% 65%	78% 76%
⑤資料検索機、インターネット等のパソコンでお探しの情報は得られましたか	77% 73%	78% 78%	68% 69%	80% 69%
⑥調べものや探している本のことで職員に相談したときの回答は的確でしたか	87% 82%	86% 87%	82% 65%	89% 85%

VI 今後の図書館経営・施設整備の方向性

中央図書館を中核に、3館が一体となって機能強化を図るため、組織体制やサービス内容の見直しを行うとともに、老朽化した中央図書館の施設整備をすすめる。

【重点事業①】 地域分担から機能強化へ

- 県民ニーズや時代に対応した図書館サービスを実践するため、組織体制やサービス内容の見直しを行う。
- 県立図書館司書の専門的知識・経験を活かしながら、数値目標と図書館関係の調査実施などを通じて、自己点検と外部評価により、効果的・効率的な図書館経営を進める。
- 3館が収集分担を明確にし、連携して市町村立図書館が収集し難い資料を多く収集・保存し、提供できるようにする。

<年度別>25年度～ 組織体制及びサービス見直し及び県民ニーズの把握、検証

3館) 新組織体制・開館日増の分析(継続)、館内利用者アンケート調査実施(継続)

【平成26年度進捗・成果】

3館) 各館の特色、利用方法や各種事業等について、館報、庁内HP及び各種マスコミ等を活用した広報活動を行った。

- ・館内利用者アンケート調査結果(10月26日～11月8日実施)によるご意見等を参考に、図書館サービス改善について取組を進めた。

【重点事業②】 中央図書館の施設整備

<年度別>25年度～ 施設検討(基本設計・実施設計)、耐震等改修工事

中央) 県立図書館機能の強化に必要な施設・設備の検討(継続)

【平成26年度進捗・成果】

3館) 県立図書館の今後の在り方を踏まえ、将来を見据えた施設・設備やサービスの方向性についての見直し作業を行った。

中央) 改修計画事前調査を基に検討を進めた。書庫狭隘化対策として、館内重複図書の廃棄候補の選定作業を継続して実施し、汚破損本等を含め4,893冊を廃棄した。

西部) 書庫狭隘化対策として、館内重複雑誌の洗い出しを行い156冊(3誌)廃棄した。また、館内重複図書廃棄計画の実施方法等について検討を開始した。